
天の鳥舞い降りるは月色の都 外伝集

栞

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

天の鳥舞い降りるは月色の都 外伝集

【Nコード】

N1198Q

【作者名】

栞

【あらすじ】

この外伝集は「<http://ncode.syosetu.com/n92090/> 天の鳥舞い降りるは月色の都」の話のなかの番外的なものを集めたものです。先に本編を読んでいただければ幸いです。

交わらない真実

(吉岡先輩・・・・・・・・吉岡先輩・・・・・・・・)

あの日、自分が1つ年下の後輩に告白したあの日。彼女の家は火災に遭い、彼女は家族共々逝ってしまった。

凄まじい火災だったと聞く。彼女の両親の遺体は判別は難しいほどだったがそれでも発見され、だが彼女の遺体だけではどうしても発見が叶わなかった。

そしてあの日から自分・・・・・・・・吉岡勇次は夢を見るようになった。

泣きながら自分の名を呼び続ける少女の姿。手を伸ばしても届かない。見えない何かに拒まれ続け、そして自分の叫びに目を覚ます。そんな日が幾日も続いた。

あの子は・・・藤崎さんは。今もなお何処かで苦しんでいるのだろうか。成仏出来ていないのだろうか。

勇次は歩きながらぼんやりと考えていた。

「勇次！」

ぼんつと後ろから肩を叩かれ。勇次は驚いた表情で振り返った。幼馴染の悪友である葦原裕樹あしわらひろきの姿がそこにあり。

「またぼーつとしてんのか？お前」

「ああ、悪い・・・」

「・・・・・・・・零ちゃんの事か？本当気の毒だったよな・・・・・・・・まさかこんな事になるなんて・・・・・・・・」

ぐいつと首に腕を回され、勇次が眼を細める。

「今でも、忘れられないよ。あの日見た最後の笑顔・・・・・・・・あんな・・・・・・・・」

声無く頂垂れ涙を滲ませる勇次に裕樹が溜息を零し。その背をぽんぽんと叩いてやった。

「おれは零ちゃんとは直で話した事は無かったけどさ。陸上の練習をいつも見に来てる事には気付いてたぜ。あんな健気な子、滅多にいないっての。・・・心配すんな、神さまはあの子を辛いところに連れてつたりしないよ。今頃きつと天国で両親と幸せに暮らしてるさ。・・・って、無宗教のおれが言っても説得力ねえか」

はは、と笑った裕樹に勇次が苦笑を浮かべ。

「なあ、裕樹」

「あん？」

「・・・夢を見るんだ、あの日以来・・・」

勇次の言葉に裕樹が首を傾げ。語られた夢の内容に眉を顰めた。

「・・・なるほどな」

「俺はどうしたら良いんだろうか。どうしたら藤崎さんが安らかに眠れるのだろうか」

「そうだな・・・なあ勇次。零ちゃんは勇次が悲しんでいるのが辛いんじゃないのか？いつまでも自分の事で悲しんでいる勇次を何処かで見ていて、早く立ち直って欲しいと思っているんじゃないんだろうか」

「・・・」

「まだあの子が死んでしまっただけから一月、か？悲しむな、ってのは無理だろうけど、先を見据えてがむしゃらでも生きていけよ。・・・年が明けたらさ、一緒にあの子の墓のお参り行こうぜ？」

苦笑のまま勇次が頷き。ニツと笑った裕樹がその背をもう一度叩いた。

「よっしゃ！・・・そんなじゃ心広いおれさまがたこ焼き奢ってやつから、しけた顔はそこまでにしとけ。な？・・・全くなんな頼れる親友を持ったお前は本当に幸せもんだぜーっ」

藤崎さん。

もう悲しまないで。俺はもう大丈夫。これからも君の事を思い出して涙するかも知れないけれど、それでも。前を向いて生きていくよ。だから藤崎さんも……………どうか、安らかに……………。

2つの世界の真実は1つに交わる事は無く。

片方では存在が消え、もう片方でそれは続いていく。

点は点でしかなく、決して線になる事は無い。これまでも、これからも。

「……………」

ふと何か聞こえた気がして、零は窓の方を見た。その仕草にシヴェリが視線を向ける。

「どうかしたか？レイ」

「う、うつん……………何も……………」

今、吉岡先輩の声が聞こえたような……………。まさか……………ね。それに……………。

ちらりと零がシヴェリを見。男の人の声が聞こえたと言ったところの人は駄々を捏ねそうだ、と溜息を零した。

様子を見ていたシヴェリが寝そべったまま片眉を跳ね上げ。

「レイ」

「え？……………わ、きゃっ」

ぐいつと引き込まれ、零はシヴェリの腕のなかへと転がり込んだ。

「何を考えていた？」

「何を、って……………何も。あ……………、皇子、お、お酒臭い……………」

「隠し立てをするなら、こうだぞ」

「あつ、え？．．．．．つ、きゃ、きゃはははつ、皇子、皇．．．
や、やめて、くすぐった．．．．．つ！！」

吉岡勇次が見る夢が終わりを迎えたのはそれから間も無くの事。
翌年、勇次は志望校に受かり新たな道を歩み始めていった．．．．．
．．．．．。

交わらない真実（後書き）

1 話の後の物語。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1198q/>

天の鳥舞い降りるは月色の都 外伝集

2011年1月15日22時55分発行